第65回

上海老人ホーム概況

2015年末でベッド数12万強

新年明けましておめでとうございます。お陰様で当社は上海合弁会社を設立して今年で5年目を迎えることができ、これも皆様からの格別なご高配の賜物と存じます。改めて厚く御礼申し上げます。

さて、新年第1弾は上海市老人ホーム施設概況についてお話ししたいと思います。2015年末時点での施設数は全699棟、ベッド数12万5000床、入居者数は7万5000人、利用率は60%となり、昨年新たに発表された、第13次5ヵ年計画において、市は2020年迄に15万9000床（1000人当たり30床）を目標に掲げました。毎年約7000床程度の増床が必須の計算になります。

これに対し、増床促進策として様々な助成金制度を創出。例えば、政府投資の政府又は民間非営利運営施設に対し、1床当たり16万元、大型居住社区内での政府投資民間運営に対し、建設コスト75%比率で1床当たり上限12万元、社区外では、北四区（普陀・閘北・虹口・杨浦）での開設に限り、建設コスト50%比率で1床当たり上限8万元、南四区（黄浦・静安・長宁・徐汇）では、1床当たり2万元の助成金がもらえます。

2020年までに約16万床に

そのほか、一時的税金優遇政策や運営助成金なども助成金などもあり、市場は更に加速することが予測されます。

とはいえ需給が不均衡。重度介護者や認知症高齢者の受皿は少なく、特に郊外での高額又は軽度施設の余剰分が冒頭記載の稼働率低迷を招いています。更に今後も軽度施設等の新設が予測され、重度や認知症施設の新設は運営ノウハウや専門人材不足ということもあり、需要に追い付いていない状況にあります。

ですが、新規参入の際は、ここに着眼することも1つの勝機ともいえます。こういった事も念頭に置き、当社は今年も全員一丸となり全力で頑張って参ります。それでは本年も引き続き宜しくお願い申し上げます。

中国の
高齢者マーケット
～介護・不動産事業の行方～

ゲストハウス総経理
稲田義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。